

「国語に関する世論調査」の結果について

令和7年9月26日に公表した令和6年度「国語に関する世論調査」の結果の一部を紹介する。なお、全体の調査結果は文化庁ウェブサイトで公開している。

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/index.html



1. はじめに

文化庁では、国語施策の参考とするとともに、国民の国語への関心を喚起するため、平成7年度から毎年度「国語に関する世論調査」を実施している。

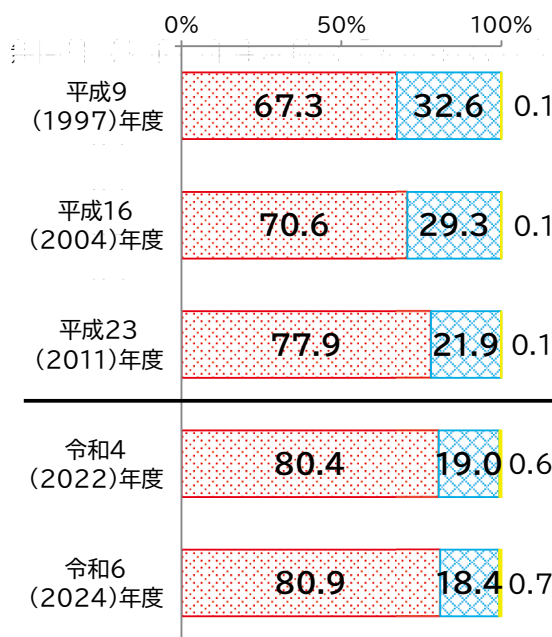
令和6年度の「国語に関する世論調査」では、言葉の使い方、SNSとコミュニケーション、敬語、外来語の表記、慣用句等の意味など全部で16の項目について調査した。調査結果は、文化審議会国語分科会の審議資料とする等、国語施策の立案に資する。

ここでは、今回の調査結果のうち、言葉の使い方、SNSとコミュニケーション、敬語、慣用句等の意味などについての設問について紹介する。

2. 言葉の使い方に気を使っているか

ふだん、言葉の使い方について、どの程度気を使っているかを尋ねた。

図1 言葉の使い方に気を使っているか



■ 気を使っている(計)

■ 気を使っていない(計)

■ 無回答(平成23年度以前は「分からない」)

※ 調査方法変更のため、平成23年度以前は参考値となる。

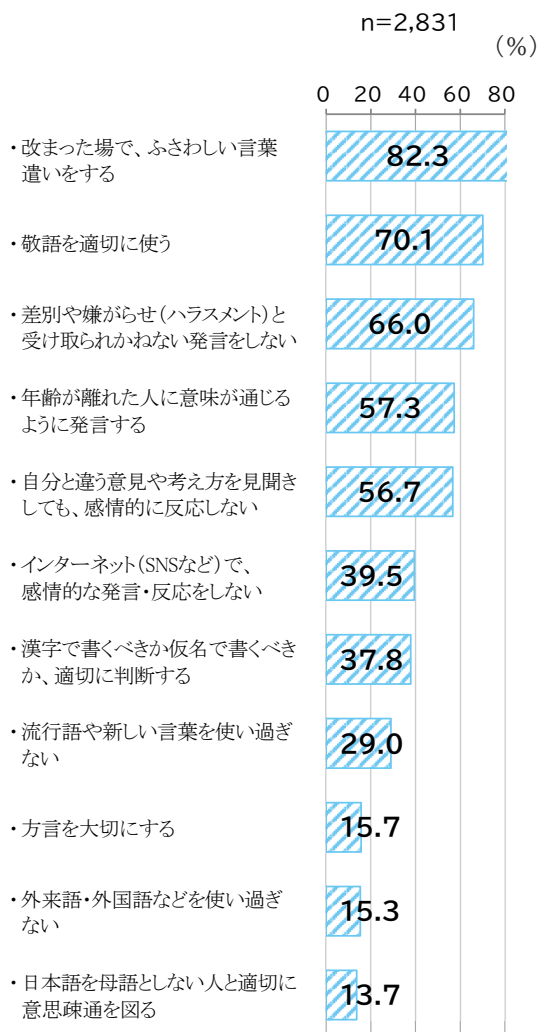
結果は、「非常に気を使っている」を選択した人の割合が8.1%、「ある程度気を使っている」が72.9%で、この二つを合わせた「気を使っている(計)」は80.9%となっている。一方、「全く気を使っていない」が1.3%、「余り気を使っていない」が17.0%で、この二つを合わせた「気を使っていない(計)」は18.4%となっている。

過去の調査結果(平成9、16、23、令和4年度)と並べて見ると(図1)、「気を使っている(計)」は、これまでやや増加傾向にあり、今回調査でも8割を超える水準を維持している。

3. どのように気を使っているか

言葉の使い方に「非常に気を使っている」と「ある程度気を使っている」と回答した人（全体の80.9%）に、どのように気を使っているかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）（図2）。

図2 言葉の使い方に気を使っているか



結果は、「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」（82.3%）の割合が他に比べて高く、次いで「敬語を適切に使う」が70.1%、「差別や嫌がらせ（ハラスメント）と受け取られかねない発言をしない」が66.0%、「年齢が離れた人に意味が通じるように発言する」が57.3%、

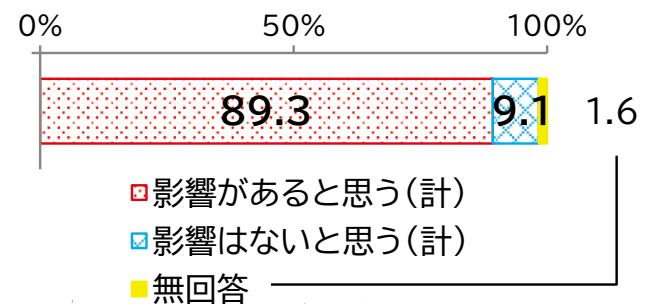
「自分と違う意見や考え方を見聞きしても、感情的に反応しない」が56.7%となっている。

4. SNSとコミュニケーション

SNSの普及によって、社会で使われる文字や語句、また、社会における言葉の使い方に影響があると思うか尋ねた。（図3）

結果は、「大きな影響があると思う」を選択した人の割合が37.8%、「多少影響があると思う」が51.5%で、この二つを合わせた「影響があると思う（計）」は89.3%となっている。一方、「全く影響はないと思う」が0.6%、「余り影響がないと思う」が8.5%で、この二つを合わせた「影響はないと思う（計）」は9.1%となっている。

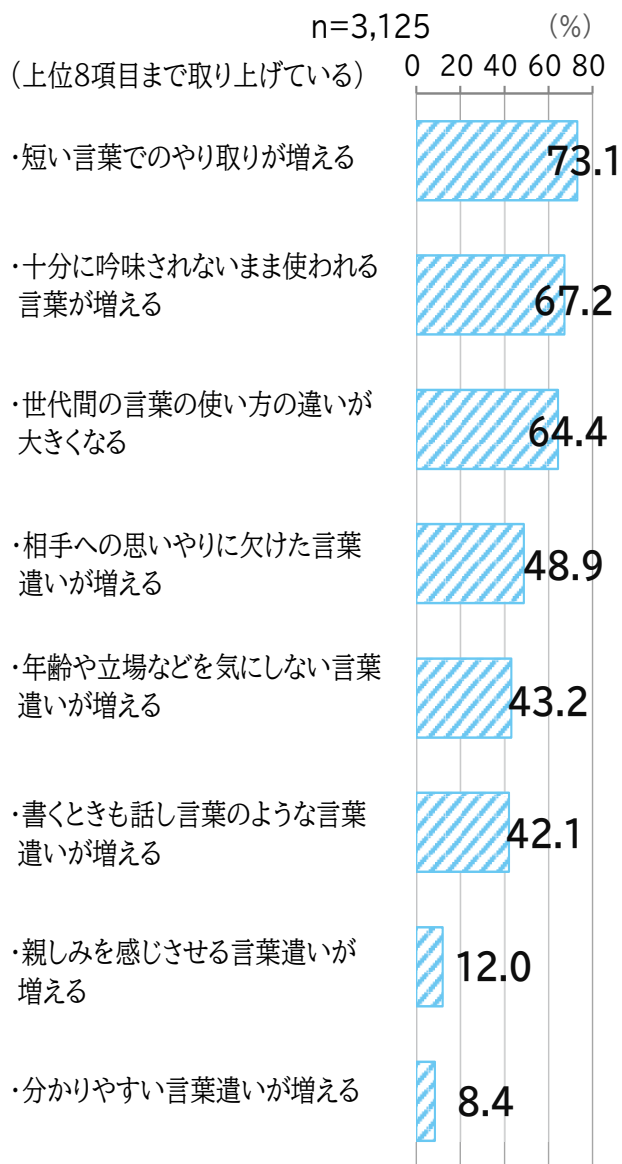
図3 SNSの普及による、社会における文字や語句、言葉の使い方への影響



前問に、「影響があると思う（計）」と回答した人（89.3%）に対し、社会における言葉の使い方にどのような影響があると思うかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）（図4）。

結果は、「短い言葉でのやり取りが増える」（73.1%）の割合が他に比べて高く、次いで「十分に吟味されないまま使われる言葉が増える」が67.2%、「世代間の言葉の使い方の違いが大きくなる」が64.4%となっている。

図4 SNSの普及によって社会における言葉の使い方にどのような影響があると思うか



5. 配達の人や、会社で仕事後に掛ける言葉

注文した品を届けに来てくれた配達の人に対して、配達が終わったときに何という言葉を掛けることが一番多いか、また、同じ会社で同じ仕事を一緒にした人たちに対して、その仕事が終わったときに何という言葉を掛けることが一番多いかを尋ねた（図5～7）。

図5 配達の人に掛ける言葉

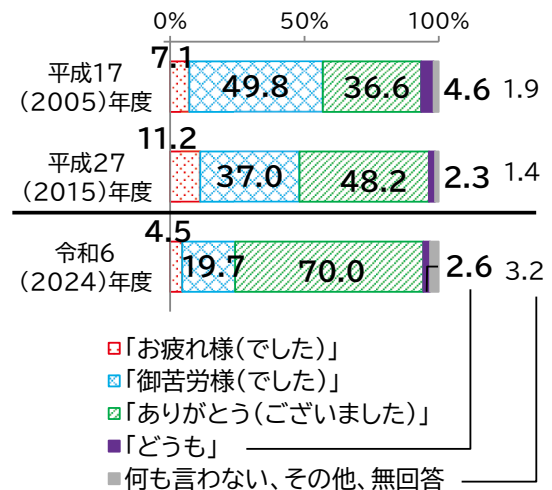


図6 仕事後に掛ける言葉（職階が上の人に）

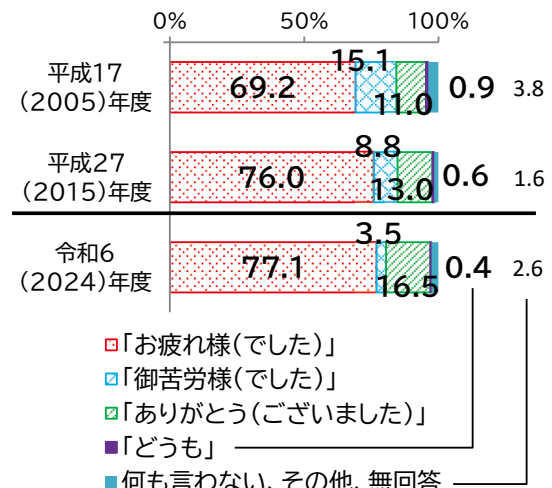
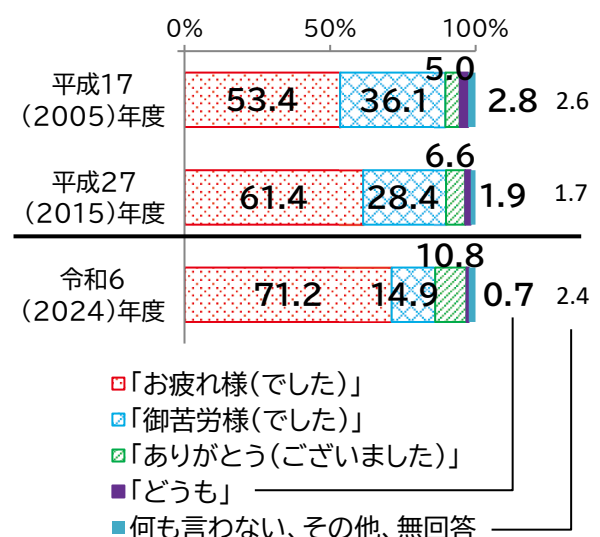


図7 仕事後に掛ける言葉（職階が下の人に）



結果は、配達の人に対しては、「ありがとう（ございました）」（70.0％）の割合が他に比べて高く、次いで「御苦労様（でした）」が19.7％、「お疲れ様（でした）」が4.5％となっている。

また、仕事後に掛ける言葉としては、自分より職階が上の人に対しては、「お疲れ様（でした）」（77.1％）の割合が他に比べて高く、次いで「ありがとう（ございました）」が16.5％、「御苦労様（でした）」が3.5％となっている。自分より職階が下の人に対しては、「お疲れ様（でした）」（71.2％）の割合が他に比べて高く、次いで「御苦労様（でした）」が14.9％、「ありがとう（ございました）」が10.8％となっている。

6. 新しい言葉

「インターネットの有料サービスを利用する」といった意味で、「課金する」と言うなど、下線部分の言い方を使うことがあるか、また、ほかの人が使うのが気になるかを尋ねた（表1）。

結果は、「使うことがある」の割合が高いものほど、「気にならない」の割合が高くなる傾向があり、「使うことがある」・「気にならない」と回答した割合が高い順に、それぞれ、「家電（いえでん）」が52.6％・82.8％、「映（ば）える」が50.4％・81.1％、「課金する」が46.2％・80.7％、「ポチる」が32.0％・69.0％、「エモい」が17.8％・56.7％となっている。

7. 慣用句等の意味について

例年尋ねている、慣用句などの言葉の意味について問いの結果は表2のとおりである。表中の**太字は、辞書等で主に本来の意味とされてきた選択肢**である。また、白抜きの数字は、辞書等で本来の意味とされてき

た方を選択した割合より、そうでない方を選択した割合が5ポイント以上高いものである。

「(3) にやける」が辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されている。また、「(1) 付かぬ事」「(4) 役不足」「(5) 潮時」は、本来の意味とされてきたものと、そうでないものを選択した人の割合の差が5ポイント未満と拮抗している。

文化庁では、日本語に関する信頼できる情報をまとめた「言葉の情報サイト」において、本調査を基にした慣用句等についての動画「ことば食堂へようこそ!」や、敬語に関する解説動画「言葉に迷ったときのヒントー敬語編ー」を公開している。こちらも是非御覧いただきたい。

〈言葉の情報サイト〉

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugonihongo/kotobanojouhou/>



〈ことば食堂へようこそ!〉

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugonihongo/kokugoshisaku/kotobashokudo/index.html>



〈言葉に迷ったときのヒントー敬語編ー〉

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugonihongo/kokugoshisaku/hinto/index.html>



表1 (数字は%)

	使うことがある	使うことはない	気になる	気にならない
「自宅にある固定電話」 といった意味で「家電(いえでん)」と言う	52.6	45.9	16.0	82.8
「写真に写すときなどにきれいでおしゃれに見える」といった意味で「映(ば)える」と言う	50.4	48.1	17.3	81.1
「インターネットの有料サービスを利用する」 といった意味で「課金する」と言う	46.2	52.1	17.6	80.7
「インターネットで商品などを買う」 といった意味で「ポチる」と言う	32.0	66.3	29.2	69.0
「心が揺さぶられる感じがする」 といった意味で「エモい」と言う	17.8	80.6	41.7	56.7

表2 (数字は%)

(1)付かぬ事 例:付かぬ事をうかがいますが	令和6 (2024)年度
(ア)些細(ささい)でつまらないこと	41.6
(イ)それまでの話と関係のないこと	45.6
(2)したり顔 例:したり顔で説明する	令和6 (2024)年度
(ア)得意げな様子	64.5
(イ)知ったかぶりしている様子	25.1

(次ページに続きあり)

表2（続き）（数字は%）

(3)にやける 例:彼はいつもにやけている	令和6 (2024)年度	平成23 (2011)年度		
(ア) なよなよとしている	10.5	14.7		
(イ)薄笑いを浮かべている	81.9	76.5		
(4)役不足 例:彼には役不足の仕事だ	令和6 (2024)年度	平成24 (2012)年度	平成18 (2006)年度	平成14 (2002)年度
(ア)本人の力量に対して役目が重すぎる	48.9	51.0	50.3	62.8
(イ)本人の力量に対して役目が軽すぎる	45.1	41.6	40.3	27.6
(5)潮時 例:そろそろ潮時だ	令和6 (2024)年度	平成24 (2012)年度		
(ア) ちょうどいい時期	41.9	60.0		
(イ)ものごとの終わり	46.7	36.1		

備考：新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度調査以降、調査方法を令和元年度以前の面接聴取法から郵送法に変更した。そのため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要である。百分比は各問いの回答者数を100%として算出し、小数第2位を四捨五入して示しているため、百分比の合計が100%にならない場合がある。内訳とその小計においても同様である。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数第1位を四捨五入して示した。